

講義内容

特別講演	全国レベルの民間トップ経営者などの講演
座学・演習	座学(講義)と演習をセットにした反復訓練
セミナーなど	組織体制強化のため、塾生と幹部・中堅社員も出席
研修技法	マネジメントゲームなどの研修技法を多く織り込む
国内視察研修	優良企業視察や先進塾グループとの交流
フォローアップ	①塾卒業生の自社戦略実行・検証・見直し・再挑戦などを支援。②卒業後も本塾のカリキュラム選択による授業参加可能。③行政など各種支援制度の導入あっせん



財務戦略！
人事組織戦略！
トップリーダー養成！
マーケティング戦略！
生き残るための新経営戦略！

秋田の大地に新しい風を起こそう！ あきた凌雲塾 塾生募集

秋田商工会議所では、新しい時代にチャレンジする熱意と、豊富な専門知識を有するリーダーを養成し、秋田の大地に新しい風を起こす秋田経営塾「(愛称)あきた凌雲塾」を開設します。
経営革新への意欲とゆるぎない信念を持つかた、ふるってご応募ください。

対象 県内企業の経営者、後継者など

定員 20人

講義期間 平成16年4月から2年間

講義回数 月4回(8、12、1月は月2回)

講義時間 午前9時～午後5時

授業料 2年コースで100万円(税込み)

卒業生のフォローアップ事業は別料金が必要

講義内容

この塾は、単に知識を詰め込むだけでなく、創造力、企画力、問題解決力など考える力を養うための演習や研修技法を多く取り入れ、実践的能力を習得します(上表参照)

申し込み・問い合わせ

秋田商工会議所経営相談課

tel(866)6677

凌雲とは、雲をしのぐほどの高いこと



秋田テルサ3階
tel(889)8609

中高年のかたの再就職や、失業中・在職中の悩みについての相談も行っています。

総合雇用支援センター
午前9時～午後6時
(日・月・祝日は休館)



アトリオン3階
tel(836)7820

**ハローワークプラザ
アトリオン**
平日午前9時～午後5時



茨島一丁目12-16
tel(864)4111

ハローワーク秋田
平日午前9時～午後5時

雇用・労働相談窓口のご利用を

ハローワーク秋田をはじめとする雇用相談窓口では求人情報の提供を無料で行っています。お気軽にご利用ください。



秋田市雇用相談窓口
平日午前8時30分～午後5時15分

市役所市民相談室内にある雇用相談窓口は、4月1日から市役所分館1階の工業労政課に移ります。相談内容は、求人情報の提供、求職活動への助言、各種職業訓練の案内など、お気軽にどうぞ。

市役所分館1階
工業労政課 ☎(866)2114

秋田県福祉保健人材センター
平日午前8時30分～午後5時

福祉施設などへ就職希望のかたへ、求人情報の提供を無料でを行います。ご利用は登録制です。

登録対象

ホームヘルパー1・2級、介護福祉士、保育士、社会福祉士、ケアマネジャー、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、栄養士などの資格をお持ちのかた(資格のないかたもご相談ください)



旭北栄町の県社会福祉会館5階
県福祉保健人材センター

☎(864)2880



その油断 火から炎へ 災いへ

春の火災予防運動

4月4日(日)～10日(土)

昨年秋田市で起きた火災は101件で損害額は約1億8千万円となり、大切な財産が一瞬にして灰になっています。こうした火災は、不注意によるものが多く、一人ひとりの心がけでかなり防ぐことができます。火の恐ろしさを改めて認識し、絶対に火事を起こさないようにしましょう。

火災警報器をつけましょう

住宅火災で亡くなったかたの原因の約7割が逃げ遅れ。火災をいち早く知り、素早く避難するため、「住宅用火災警報器」の設置をおすすめします。

古くなった消火器は捨てましょう

古くなった消火器は、いざというときに使えなかったり、消火器本体が破裂して思わぬけがをすることがあります。この機会に、古くなった消火器は捨てましょう。廃棄処分については、購入したお店、または消防設備業者にお問い合わせください。

消防団の訓練のため 中土橋付近が一時通行止め

消防団員の訓練のため、中土橋付近(広小路側から県民会館東側道路)が4月4日(日)午前6時40分～7時40分、通行止めとなります。ご了承ください。

問い合わせ 消防本部tel(823)4000

消防力の充実・強化を進めます

新しい大型救助工作車



秋田消防署の 救助工作車を更新

この三月から秋田消防署に、大型救助工作車が導入されました。この救助工作車は、平時の一般救助活動はもちろん、地震などの大規模災害発生時に対応するため、四輪駆動の車体、前後両方引くことができるウインチ、二・九メートル級のクレーンなど特殊な装置を装備しています。さらに、短時間で要救助者の発見ができる赤外線による熱画像直視装置などでも完備。高度な救助資機材でより迅速な救助活動を実践していきます。

保戸野出張所を 秋田消防署に編入

秋田消防署保戸野出張所(職員十二人、消防車一台)は、消防組織体制の充実強化を目的に策定した「秋田市消防組織再編計画」に基づき、三月十八日をもって秋田消防署へ編入されました。これにより、同出張所は廃止となり、泉・保戸野・濁川の各地区は秋田消防署の担当区域となりますので、消防に関する届け出などがありましたら、市消防庁舎二階の秋田消防署までお願いします。

秋田市消防本部では、消防力の充実と強化をはかるため、秋田消防署の救助工作車を更新し、秋田消防署保戸野出張所を秋田消防署へ編入しました。市消防本部では、今後ともさらに迅速な消防活動、地域の消防力の強化に努めてまいります。



この冬も除排雪にご協力
ありがとうございました。



除雪車が通ったあと、玄関先の雪寄せを行う山崎団地町内のみなさん



貸ダンプに雪を積む新屋北浜町のみなさん

今年には平年に比べ雪が少なく、市の除排雪経費は約二億六千万円となる見込みで、昨年度よりも少ない経費で済みそうです。そんななか、地域の人たちによる除排雪の取り組みも各地でみられました。広面の山崎団地町内会では、町内の除雪や高齢者への除雪協力などを活動内容に盛り込んだ自主防災組織を、昨年十二月に設置。町内会長の木谷昇さんは「形式的な自主防災組織では意味がないと思い、町内会で話し合った結果、毎年行う除雪をその活動内容に盛り込みました。今シーズンの除雪は四回。地域で横の連携をとり、組織の強化をはかりたい」と話します。また、新屋北浜町では、市から排雪用のダンプを借りて小路の雪よせに汗を流しました。また来シーズンもよろしくご協力をお願いいたします。